

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2017年3月2日

No.11

**組合：計画の達成は組合員の努力によるものだ！
経営陣は労苦に対する判断を示せ！**

**会社：この間の努力については認識している。
引き続き交渉を重ねていきたい。**

～2017 JR 総連春闘 第3回交渉報告～

中央本部は本日13時30分より第3回交渉を行い、今次春闘における要求の根拠について主張しました。要求の根拠は以下の通りです。

- (1) 会社は次期中期経営計画を策定中であり、多少の景気変動や災害があっても安定的な経常利益を継続的に達成できる経営体質を構築するとしている。そして「ヒト・モノ・カネ」を投入していくことを鮮明にしている。そうであるなら今春闘で反映すべきだ。
- (2) 「中期経営計画2016」の最終年度を迎え、今年度は鉄道事業部門の黒字化を必達目標としてきた。そして目標の達成が目前まで来ている。この結果は「17年連続ベアゼロ」、「手当の削減」「低額の期末手当」「働き度向上施策」に対して我々が汗と血を流してきた。会社は収入拡大に向けて努力はしてきたが、収入の大幅な改善は出来ていない。間違いなく人件費をはじめとした大幅なコスト削減によるものである。その結果、経常利益は5年連続の増益となり、今年度は過去最高ともいえる業績をあげており、その還元は当然である。
- (3) 労使で真摯に議論を行い整理をしてきた「昨年の積み残し」を無視することは断じて許さない。
- (4) 大量退職時期を迎え、各職場においては欠員状態となっている。そして要員対策として新規採用を再開したが、第3次募集まで定員を満たすことが出来なかった。各企業がこぞって人材確保を進めている中で、選ばれる企業となっていないということを意味している。選択される企業となるためにも賃金引き上げは大きな要素になる。
- (5) 国鉄改革から30年を迎えたが、その半数年以上ベアが実施されていない。このことは異常な状態と言わざるを得ず、今春闘でベアを実施すること。
- (6) 計画目標が達成でき、経常利益も黒字となることが目前となっている現状で、ベア実施は出来ないでは納得できない。今春闘は昨年の「積み残し」と「ベースアップ」「55歳以降の賃金ダウンの改善」にはこだわっていく。

我々の要求根拠に対して会社は、「貨物労組の要求根拠や奮闘に臨む姿勢については会社として認識している」とし、以下のように回答しました。

- 【1】 第2回交渉で「収入動向」を協議し、営業からもあったが、今年度は必達目標を達成できる状況に近づいている。次年度以降も継続的に黒字化が達成できる企業にする。
- 【2】 17年連続ベアゼロ、手当の削減、低額の期末手当、働き度向上施策に対して血と汗を流し、必死に努力してきた結果であることは認識している。
特にJR発足30年を迎え、17年連続ベアゼロということの重大性は理解している。引き続き交渉をおこなっていく。
- 【3】 2月は、北海道での脱線事故や東海道本線での機関車故障があり、速報ではコンテナ4,800万円ショート(99.5%)、車扱いは約500万円のプラス(100.4%)となり4,400万円ほどショート(99.6%)となっている。残り1カ月だけが努力していきたい。
- 【4】 貨物労組には復旧作業や挽回輸送などに尽力していただいたことに感謝申し上げる。
- 【5】 申し入れの時に指摘されたことは、社内で議論している。今回の交渉で要求の根拠が出されたので、今回の交渉で指摘されたことについても併せて議論する。

会社の回答に対し中央本部は、

- ①今年だけ自然災害が多く発生したわけではなく、災害のない年はない。そのような中で、約30億円の収支改善がはかられたことは、我々が3年間「血と汗」を流して奮闘してきたことを改めて認識すべきである。
- ②JR発足して30年が経過しようとしているが、17年連続ベアゼロであり、半数以上がベアを経験していない状況である。これは異常な状況であると言わざるを得ない。
- ③貨物労組はこれまで鉄道事業部門の黒字化に向けて汗をかきとして、諸手当見直しや働き度向上施策を判断してきた。この3年間の努力と今年度の業績について、結果からみてもベアにこだわる。また、去年の積み残しについてもこだわる。
- ④55歳の賃金ダウンについては、55歳定年制を60歳定年制度が実施されて以降も現状に則した内容とはなっていない。65歳を過ぎても職場で奮闘している嘱託社員もいる。賃金について改善をはかること。
- ⑤社長が言っている「節目をつける」ことについて、その節目のつけ方が問題になる。働き甲斐のある職場をつくると言っているならば、それに伴ったことを実施すること。
- ⑥これらのことを踏まえて、今回の春闘は「結果にこだわる」。3年間の血と汗を流した結果に対して会社経営陣としての判断を示すこと。
本日の議論を真摯に受け止め、ベースアップの実施を含めた回答を示すことを通告し第3回交渉を終えました。

組合員のみなさん！この間の私たちが奮闘してきた結果、必達目標が達成できる目前まできました。この成果は私たちが奮闘してきたからに他なりません。この重みを会社経営陣の姿勢をただすために職場から全組合員が一丸となって闘いをつくり出していかなくてはなりません。本日の第3回交渉以降、闘争ゾーンに入ります。ベア獲得・諸要求の実現に向けて、それぞれの職場から切実な「声」をこれからの闘いに結集させましょう。中央本部は、その最先頭で奮闘していくことを申し上げ第3回交渉報告とします。

以 上

次回、第4回交渉は3月10日（金）です。